

教育方法：PBL（Problem Based Learning）の概要

今村 敦司

高校一年生の総合人間科は、PBLを導入している。このPBLとは、一般的に知られているProject Based Learningではなく、Problem Based Learningでとされている。本校で実施するPBLについて、以下の項目に沿って説明する。

- ・高校3年間の総合人間科学習コースの中での位置づけ
- ・他校の課題探究型授業との違い
- ・学習の目標
- ・対象学年と指導体制、学習形態
- ・学習の展開
- ・今後の課題

(1) 高校3年間の総合人間科学習コースの中での位置づけ

三年間の総合人間科は、概ね次のような形で進む。



PBLは課題探究の方法を実践的に学ぶためのプログラムとして、1年生の後期に配置した。高校1年生の学習の中でも中核となる。ここで身につけたスキルを、2年次以降の学習で使って活動する。そのため、3年間の学習の中で基盤となるプログラムである。

なお、三年間の主な学習内容と時期は次の表の通りである。

学年	時期	学習内容
S1	4～9月	6領域に関するキーワード収集 課題解決のための手法の学習 文献調査の手法（探し方、読み方、記録の作り方）
	10～12月	PBL1（課題の分析、「問題」への分割、解決方法を実践的に学ぶ） 教員から与えられる課題を3か月で解決・達成する学習
	1～3月	PBL2（課題の分析、「問題」への分割、解決方法を実践的に学ぶ） 生徒は1とは違う教員の許で学習（教員は同じ課題を指導する） 情報マップ作成（個人テーマに関わる文献調査のまとめ）

S2	4～7月	領域別個人テーマ探究学習1 課題設定→課題解決（調査・検証） →ミニレポート ここで出た課題を次のクールのテーマにして良い
	9～12月	領域別個人テーマ探究学習2
	1～3月	領域別個人テーマ探究学習3
S3	4～9月	研究のまとめ1 S2時のミニレポートをもとに追加調査をし、論文化する
	10～12月	研究のまとめ2 論文を元に発表会

(2) 他校の課題探究型授業との違い

本校のPBLは、あらかじめ教師が設定したテーマを生徒が選び、グループごとに分かれる。その分かれたグループの中でさらに4～5班に分かれ、設定されたテーマのもとで、班でそのテーマについての結論を出すための探究方法を考え、結論を導き出していくという方法をとっている。

今年度の取り組みを「名大附の避難訓練は今ままでいいのか？」を例にとると、ある班は避難経路をすべて洗い出し、その途中にある危険箇所を調べ出すアプローチがあったり、別の班はそもそも避難経路とはどのような基準を満たすべきかということを調べるためにフィールドワークに出かけ、その基準を本校の経路が満たしているか調べるといったアプローチがあったりと、班によって探究方法が異なっている。その過程でグループごとに探究の方法としてアンケート調査やフィールドワーク、文献調査や情報収集の方法等を学んでいく。結果をグループごとに共有することで、自分たちの探究方法とは違った方法があることを知ることができる。グループで活動するために、意見を交わしながら全員で学ぶことができる、等、来年度以後は個人研究になるので、一度全員が様々な方法を経験しながら、課題に対する結論を導き出す練習をするのである。

パーツとしての文献調査やフィールドワークの方法を学んでから個人研究に移行するような方法をとっている学校も見受けられるが、本校では探究しながらパーツを仲間と一緒に学ぶことができる点を重要視してこのような方法をとっている。

(3) 学習の目標

今年度は学習の目標を2点設定した。

- 1 翌年以降の個人探究活動に必要なリサーチ・スキルを身につける
- 2 個人探究テーマを立てる

課題研究活動に必要なリサーチ・スキルや、リサーチ・リテラシーを実践的に身につけさせることを目標とする。研究課題の把握から調査、まとめに至る課題研究の流れを、協同学習で一通り経験することによって、次年度以降一人一人が自立して課題探究ができるようになることを目指している。

本プログラムを通して生徒に身につけさせたい手法は、具体的には以下の通りである。

- ・問いの立て方
- ・資料の探し方
- ・クリティカル・リーディングの方法
- ・研究計画の立て方
- ・各種調査方法（文献調査、インタビュー、アンケート、観察などの現地調査など）とその段取りの仕方
- ・レポートのまとめ方

この取り組みは、課題探究としての個人研究論文を書くために手法を仲間とともに一通り経験させることを目的としているが、同時にその個人研究論文が自分の進路と結びつき、何のために進学するかという問いの答えを探るといった目的も兼ねている。そのため、4月のクラス単位でのワークショップ、夏休みと冬休みのブックレポートを通して、個人テーマを考える機会を設けた。また、夏休みに自分の進路を考えるための課題を出すことで、自分の興味ある分野の基礎的な知識を知る機会とした。

(4) 対象学年と指導体制、学習形態

本プログラムは、高校1年生120名全員を対象として実施する。授業は原則として、隔週木曜日の午後、2時間連続で実施した。

指導は高校1年の学年担当の教員6名が担当する。今年度は、生徒は20人を標準数とするグループに分かれ、それぞれに1名ずつ教員がついて指導に当たった。なお、グループ編成は、教員が研究テーマを作って提示し、生徒の希望に基づいて行った。

6つのグループに分かれた後は、次項で提示する過程に沿って協同学習を行った。グループ内部で、学習の展開に従って、さらに小グループやペア、必要に応じ個人での活動を組み合わせた。どの時期に、どのような単位で学習すると効果的かは学習テーマに左右される部分もあるので、グループ担当教員の裁量に任せた。

2018年度のグループ別学習課題は次の通りである。

テーマ一覧
長さの基準は“m”でよいのか？
附属高校生は学校生活において手洗いをしているか？
名大附生は今以上のジェンダー平等を求めるべきか？
名大附の避難訓練は今のままでいいのか？
自分たちは自分の意志だけでもものを買っているのか？
録音の声と自分が認識する声は違うのか

(5) 学習の展開

PBLは、それぞれ、次の学習過程を踏んで展開する。

順序	学習過程名	概要
1	課題の分析	教員から与えられた課題を分析し、以下の作業をする。 1 キーワードを定義する 2 課題を解決可能な具体的な問題へ分割する
2	研究計画作成	「課題の分析」の段階で分割した「問題」を一覧し、いつまでに、どの順で実施するか決める
3	第一次問題解決	計画に基づいて調査を実施する
4	第二次問題解決	前段階で新たに生まれた問題や、調べきれなかった問題を解決するため調査を実施する
5	結論	個人でミニレポートを書き、「課題」に対する答えを自分の答えを作る
6	ふりかえり	グループで問題解決の過程を振り返り、研究の進め方や方法論として良かったこと、改善すべきことを確認する。

協同での問題解決であるため、それぞれの過程が終了するごとに、グループ内で現状報告や、全員が知っておいた方がよい情報の共有などをする。

高校2年生での学習活動は、個人単位で基本的に上記のステップを踏んでいくため、一通りの学習の流れを経験させることを重視した。（文責 今村敦司）